

私の主張

車社会は快適です。しかし年を取るなど運転できなくなれば、日常生活が

不便になる厳しい社会となりました。車の有り無しでは天国と地獄です。

わが国の公共交通は、鉄道から路線バス、コミュニティバスなどへと変化してきました。しかしいづれにしても利用者が減少する中では、移動サービスを事業として継続するのが厳しい現実があります。公共交通では対応できない地方などでは外出を地域社会で支援する機運が高まっています。

車社会は快適です。しかし年を取るなど運転できなくなれば、日常生活が不便になる厳しい社会となりました。車の有り無しでは天国と地獄です。わが国の公共交通は、鉄道から路線バス、コミュニティバスなどへと変化してきました。しかしいづれにしても利用者が減少する中では、移動サービスを事業として継続するのが厳しい現実があります。公共交通では対応できない地方などでは外出を地域社会で支援する機運が高まっています。

地域の移動手段を確保するために

みやき町 平野 征幸 75

はこれまで20年間外出支援活動に関わってきましたが、移動に困る原因は地域や個人によりまちまちです。本来に必要な移動手段を確保するためには、困っている地域住民自らが主体となって実態を調査し、企画・立案・実行(サービス提供)してつくり上げるべき時代だと思います。まず、その地域の人々が本当に必要としているサービスは何かを見出す必要があります。その上で、実現のために自分たちでできることは自分たちで汗をかく、できないことは行政などと一緒になって考える覚悟

が必要で、そうすれば行政にも地域住民の本気度が伝わり、街に本当に必要な移動手段が誕生すると思えます。また、サービスを全て公共交通や行政に期待するのではなく、地域社会の支え合い活動で一部を原則無償で担うべきではないでしょうか。私たちが中原たすけあいの会は、1997年から移動サービスを中心にたすけあい活動をしておりませんが、現在みやき町の中原校区(旧中原町)を中心に年間100人の方に延べ6千回の移動サービスを提供しております。これからも利用者の意見を取り入れて、さらに利便性の高い移動サービスを目指していこうと考えています。(NPO法人・中原たすけあいの会理事長)